

※ 以下は、新任校長の学校にて、「PTA 親子文集」に寄稿した内容、そのまんま。紙媒体になって公表済みなんですけどね・・・。

「親子」文集ですので、我が子（長女）誕生のときの話をします。

かみさんは、里帰り（郡山市）出産でした。
その日の午前中、義母から「破水した」との連絡。「出産は多分、夜以降だから」
当時、私は東白川地区の小学校へ勤務です。少し、余裕をもって向かいました。
須賀川 IC 通過あたりで、FM ラジオから「You Raise Me Up」が流れてきました。
フィギュアスケートで五輪金メダル獲得の荒川静香が、エキシビションで使用した曲。
今でも、その場所を通るたび、鮮明に思い出します。

午後 2 時 5 0 分頃、病院到着。
ナースステーションで名前を告げると、なぜか、皆さん微笑んでいます。???
とある場所に案内されると、カーテン越しに、かみさんの苦しい声が聞こえてきます。
神妙にカーテンを開けると、そこには、
かみさんと、かみさんの世話をする、私の教え子である 助産師 M が！

「えっ、M、何してんの！」（衝撃のあまり、何とも間抜けな第一声）

まさに、ドラマか映画の世界です。
すぐに、ゴムボールを持たされて「先生、奥様のここを押してあげてください。」
何が何だかわからない、困惑の 10 分間。すると、「先生、産まれます。」「えっ？」
M と一緒に、かみさんを両脇から抱えて、そのまま分娩室へ。
考える暇もなく、立ち会い出産に突入です。
きっちり 30 分で、娘が産まれました。私が到着して、約 40 分で終了。呆然・・・。

しばらくして、頭が働いてくると、
娘誕生の感動と自分の置かれた状況に驚き、喜び、自然と身体が震えてきました。

後から知ったことですが、
教え子の M は、里帰り出産で来院したかみさんを認め、「自分が担当をしたい」と。
事前に挨拶等をするか同僚に相談すると、サプライズでもいいかもね、と助言（笑）
なので、ナースステーションでの「謎の微笑み」があったわけです。
部屋までの案内は、当日の勤務ローテーションを急遽、交代してくれた方らしく、
教え子との衝撃の対面で、もと担任がどんな反応をするかの見届け役だったのです。
おいおい・・・。
しかしながら、私にとっては、教え子の成長ぶり、専門職として颯爽と仕事をする姿を、
文字どおり、目の前で確かめる幸運に恵まれることになったのです。
この日から、彼女は我が家にとっての「ゴッドハンド様」となりました。

令和 2 年の師走直前、そのゴッドハンド様と偶然にも再会しました。

（それが、本稿執筆のきっかけです。）
白河市の某ファミレス店内で、彼女は娘に「触ってもいい？」と語りかけ、確かめるかのように丁寧にボディタッチをしていました。何だか、微笑ましい光景でした。



各々が、思い出に残る出産を経て、ここまで成長してきた子どもたち。
子どもたちが、劇的にドキドキワクワクするような場面を提供できる学校でありたい。
そんな想いを抱きつつ、学校づくりに努めています。